

展示テーマ

【知って防ごう 野生鳥獣被害】



北陸農政局「消費者の部屋」

展示期間：令和5年12月1日（金）～12月27日（水）

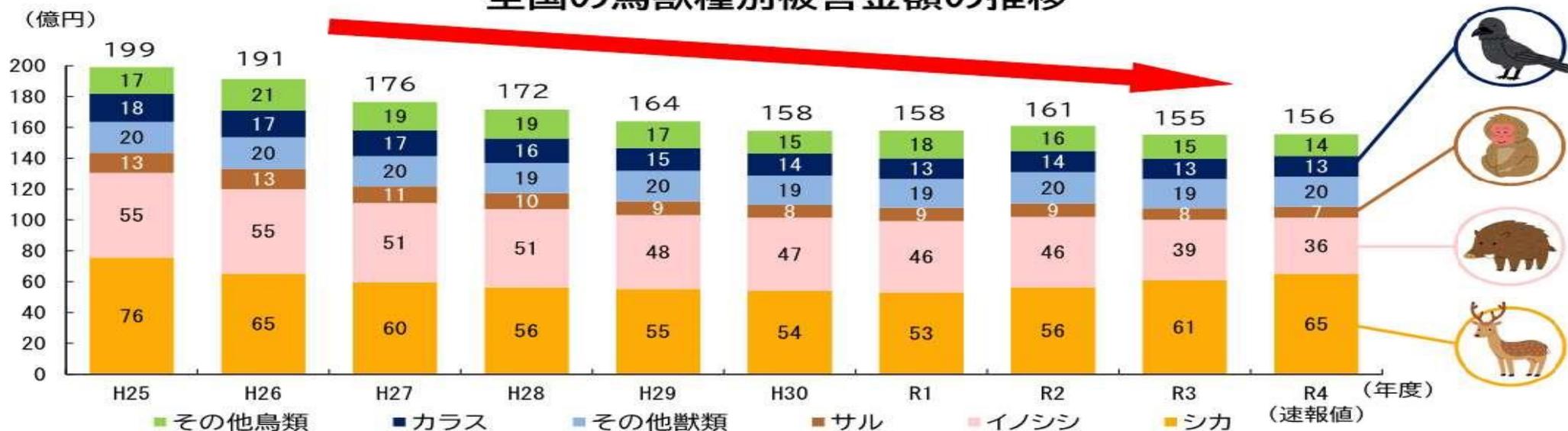


【知って防ごう 野生鳥獣被害】①

全国の野生鳥獣による農作物被害の概況

- 野生鳥獣による農作物被害額は、近年、160億円前後で推移しており、この10年では減少傾向にある。
- しかし、鳥獣被害は営農意欲の減退、耕作放棄地の増加等をもたらし、被害額として数字に現れる以上に農山漁村に深刻な影響を与えている。
- 近年はシカ・イノシシの被害が多く、2種で約6割を占める。
- 鳥獣被害が深刻化している要因としては、鳥獣の生息域の拡大、狩猟による捕獲圧の低下、耕作放棄地の増加等が考えられる。

全国の鳥獣種別被害金額の推移

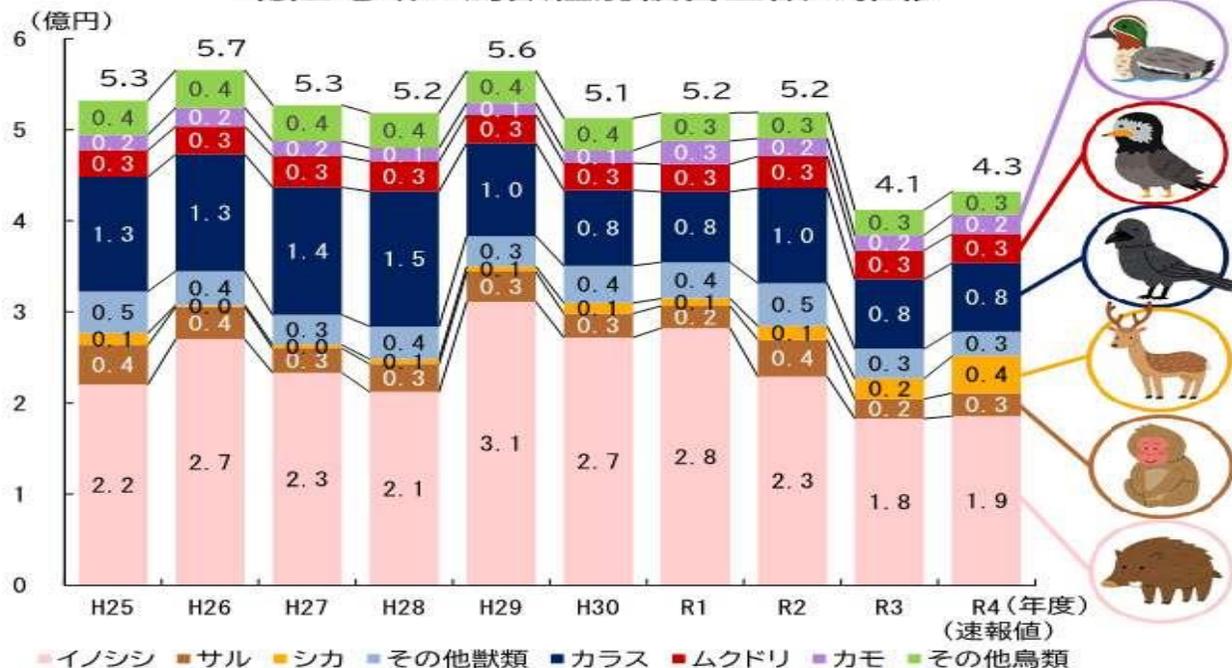


【知って防ごう 野生鳥獣被害】②

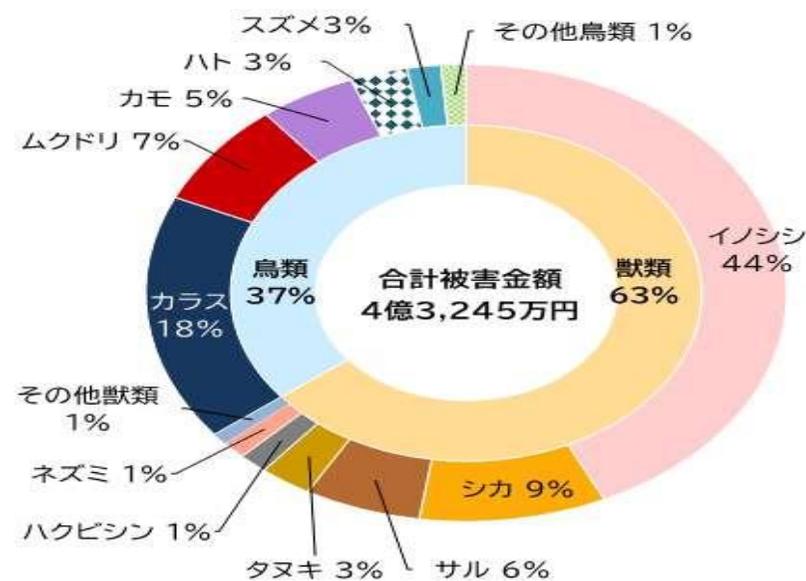
北陸地域の野生鳥獣による農作物被害の概況

- 北陸地域の野生鳥獣による農作物被害額は、近年、5億円程度の横ばいで推移しているが、令和4年度は約4.3億円となった。
- 被害額のうち全体の4割以上がイノシシであり、次いでカラス、シカの順で多く、この3種で被害金額の約7割を占める。3年度まではシカよりムクドリ被害が多く、4年度は被害額が逆転した。
- 全国で被害の多いシカは、4年度は北陸地域で全体の9%を占め、昨年度より約2千万円増加した。

北陸地域の鳥獣種別被害金額の推移



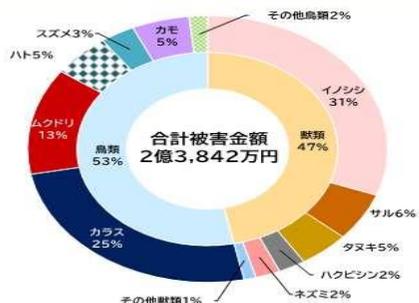
令和4年度 北陸地域の鳥獣種別金額割合



【知って防ごう 野生鳥獣被害】③

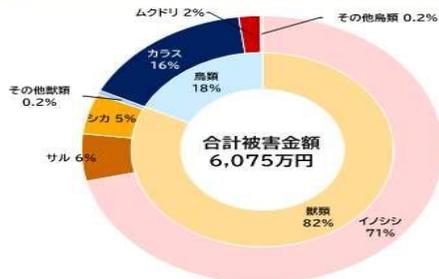
北陸農政局管内各県別の野生鳥獣による 令和4年度農作物被害状況の特徴

新潟県



- 1位:イノシシ (7,302万円)
 2位:カラス(6,013万円)
 3位:ムクドリ(3,076万円)
 ・カラス、ムクドリ等鳥類の被害が5割以上

富山県



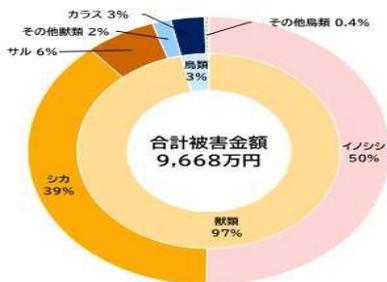
- 1位:イノシシ (4,328万円)
 2位:カラス(947万円)
 3位:サル(346万円)
 ・イノシシ被害が約7割
 ・シカ被害を初確認(約296万円)

石川県



- 1位:イノシシ (2,075万円)
 2位:カモ(878万円)
 3位:カラス(305万円)
 ・イノシシ被害が約6割
 ・カモ、カラス等鳥類の被害が3割以上

福井県



- 1位:イノシシ (4,855万円)
 2位:シカ(3,716万円)
 3位:サル(609万円)
 ・獣類による被害が9割以上
 ・北陸では被害の少ないシカ被害が約4割

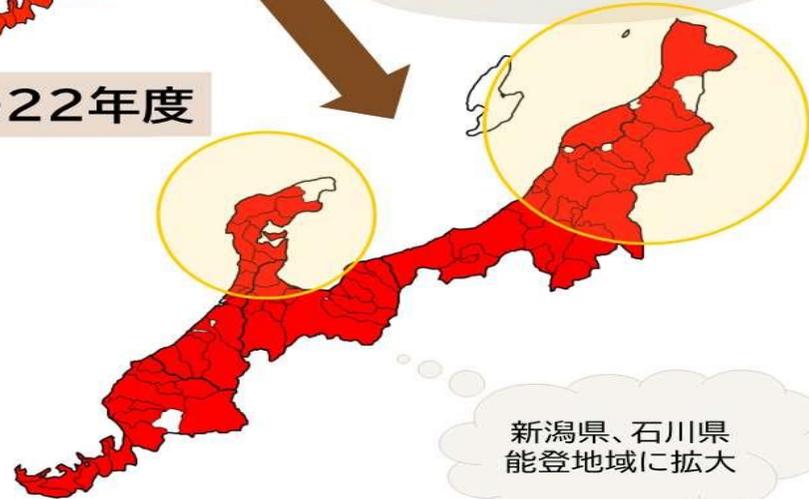
北陸地域の被害エリアの広がり 〈イノシシ〉

2011年度



生息域が北上

2022年度



新潟県、石川県
能登地域に拡大

※赤色部分は農作物被害が発生している地域

【知って防ごう 野生鳥獣被害】④

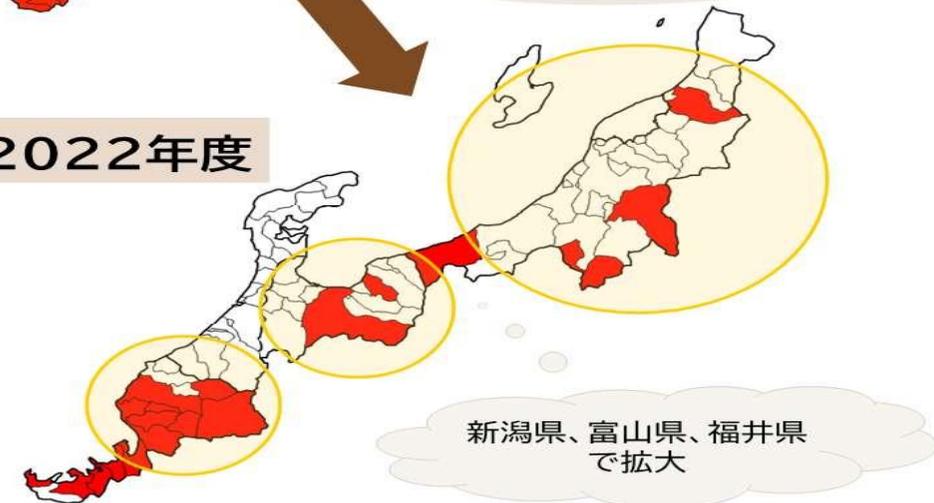
北陸地域の被害エリアの広がり 〈シカ〉

2011年度



北陸地域でもシカの被害が目立つように

2022年度



新潟県、富山県、福井県で拡大

※赤色部分は農作物被害が発生している地域

シカ・イノシシの捕獲強化対策と捕獲目標

○生態系や農林水産業等に深刻な被害を及ぼしている野生鳥獣について、更なる捕獲対策の強化を図り、

- ①シカは、令和10年度までに、生息頭数の平成23年度水準からの半減を目指す。
- ②イノシシは、平成23年度水準の半減を早期に達成し、その後も被害軽減に向けて捕獲圧を維持する。

当面の捕獲目標

シカ・イノシシの生息頭数を令和10年度までに半減し、捕獲圧を維持

シカ・イノシシ
個体数(万頭)



- 【捕獲事業の強化】
- 都道府県による個体数調整の強化
 - 管理のための捕獲事業の制度化
 - 上記事業における夜間銃猟の実施
 - 環境をまたぐ捕獲、シカ(特に雌シカ)捕獲の強化
 - 鳥獣被害対策実施部隊の設置促進・体制強化
 - 都道府県による広域捕獲の推進
 - 効果的・効率的な捕獲に向けた質の向上
 - ICT等の技術開発の成果の普及
 - シカの集中的な捕獲
- 【捕獲従事者の育成・確保】
- 事業者を認定する制度の創設
 - 都道府県等が実施する認定鳥獣捕獲等事業者等の人材育成への支援
 - 高い技術力を有する認定鳥獣捕獲等事業者の育成の推進
 - 実施隊への多様な人材の活用、研修等人材育成の充実強化
 - 県域レベルでの狩猟者団体の組織体制の強化(精鋭部隊の編制)
- ※この他、侵入防止対策や生息環境管理等の関連施策を併せて実施

※【環境省における令和4年度の推定値(北海道の個体数は北海道が独自に推定)
 ※※北海道分は北海道エソシカ管理計画(第6期:令和4~9年度)で示している基準年の推定個体数の半数(39万頭)を用いた。

【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑤

鳥獣被害対策の3本柱

○鳥獣被害対策は、**個体群管理**、**侵入防止対策**、**生息環境管理**の3本柱が鉄則。

○この3つの活動をいかに徹底してできるかが、対策の効果を大きく左右。

◆ 第1の柱…**個体群管理(捕獲)**



檻・わなの設置



銃猟

農作物に被害を及ぼす個体(加害個体)を檻やわなで捕獲したり、銃による狩猟により、**生息個体数を管理**します。

◆ 第2の柱…**侵入防止対策(柵の設置等による侵入防止)**



侵入防止柵の設置



サルの追い払い
(パチンコ)

侵入防止柵の設置や集落ぐるみの追い払いにより、**加害個体の侵入を防ぎます**。

(追い払いには、パチンコ、花火、エアガン等を用います)

◆ 第3の柱…**生息環境管理(放任果樹の伐採、刈払いによる餌場・隠れ場の撲滅)**



緩衝帯整備



放任果樹の伐採

餌となるような放任果樹の除去や、緩衝帯を整備して隠れ場をなくすことで、**加害個体が近寄りにくくします**。



放任果樹等は加害個体への「無意識の餌付け」となっている可能性がある

捕獲わなの種類

◆ 箱わな

- ・罠の中に餌をまきイノシシを誘導し扉のロックが外れると扉が閉まります。
- ・頻繁に移動させると誘因効果が低くなります。

餌となる米ぬかなどを置きます



箱わな設置状況



捕獲状況

◆ 囲いわな

- ・群れごとに捕獲する罠です。
- ・捕獲後の処理は(止め刺し)くくりわなに比べて安全ですが罠になれるまで時間がかかることがあります。



囲いわな設置状況



捕獲状況

◆ くくりわな

- ・ワイヤーで作った輪によって、イノシシやシカの脚をくくって捕まえる罠です。
- ・設置場所の選定や設置手法に一定の技術が必要です。さらに、捕獲後の処理は他の罠に比べ経験が必要です。



くくりわな



捕獲されたイノシシ

※【改訂版】野生鳥獣被害防止マニュアル イノシシ、シカ、サル(実践編)、林野庁HPより引用、現地写真より

【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑥

柵の種類

◆ 電気柵

- ・電気ショックの痛みを経験させ、柵を設置した農地に近寄り難くさせます。
- ・柵線を確認させるために動物の目線に合わせて設置することも重要です。



水田に設置された電気柵



電気柵設置作業

◆ 金網柵(ロール状)

- ・金属製のためナイロン製等の網よりも強度に優れます。また、ロール状であるため運搬性にも優れます。
- ・編み目を広げられていないか定期点検が必要で、地面を掘り起こされてくぐり抜けられないよう多めに杭を打つ等の地際補強対策が重要です。



水田に設置された金網柵



◆ ワイヤメッシュ柵(パネル状)

- ・丈夫な鋼線等を縦横に溶接して作られ、パネルごとに小分けできるので運搬性に優れます。設置時は、パネルの表裏に注意が必要です。
- ・金網柵と同様に地際補強が重要です。また、上部30cmを外側に20~30度折り曲げると、飛び越しをあきらめさせる効果(忍び返し効果)があります。



水田に設置されたワイヤメッシュ柵



掘り返し防止

※現地写真より

鳥獣被害対策技術

◆ サルテレメトリー調査用の首輪

- ・加害群のサルなどにGPS発信機付の首輪を取り付け、サル個体群の位置情報を農業者や捕獲者等に共有し、サルの追払いや捕獲などに役立て、個体群を管理します。



首輪を取り付けたサルの様子



◆ 獣害対策用グレーチング

- ・グレーチングとは、人や車は通行可能で、シカ・イノシシなどの偶蹄類(蹄を有する動物)が渡りにくく、忌避効果の高い害獣侵入防止装置です。
- ・蹄の間にグレーチングのバーが挟まり歩行が困難になるため、グレーチングを嫌がります。
- ・金網柵等の侵入防止柵や門扉が設置できない道路上の対策として有効です。(※設置にあたっては道路管理者との協議が必要です。)



※現地写真より

道路にグレーチングを設置した様子



【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑦

「電気さく」とは？

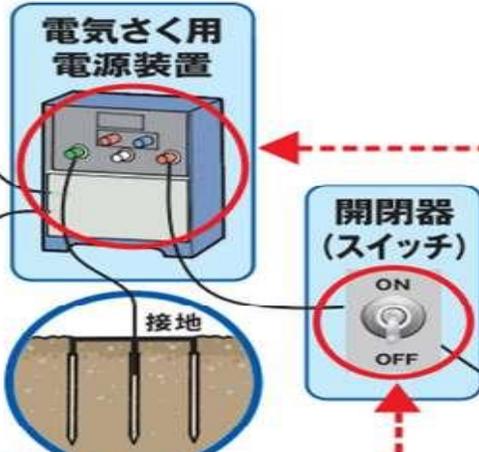
● 田畑や牧場などで、高圧の電流による電気刺激によって、野生動物の侵入や家畜の脱出を防止する「さく」のことです。

● 「電気さく」は、人に対する危険防止のために、電気事業法で設置方法が定められています。

※6,000～10,000ボルト

「電気さく」を設置する際の主な注意点

家庭用電源から直接、電気さくに電気を供給させることは絶対に行わないでください。人や家畜を死傷させる事故につながるおそれがあります。



電気さく用電源装置の使用

電気さくに電気を供給する場合は、感電により人に危険を及ぼすおそれのないように、出力電流が制限される電気さく用電源装置を用いる必要があります。



漏電遮断器の設置
電気さくを公道沿いなどの人が容易に立ち入る場所に設置する場合で、30ボルト以上の電源（家庭のコンセントなど）から電気を供給するときは、漏電による危険を防止するために、漏電遮断器を設置する必要があります。

開閉器(スイッチ)の設置
電気さくに電気を供給する回路には、電気さくの事故等の際に、容易に電源から開放できるように、開閉器(スイッチ)を設置する必要があります。※電源装置本体に付属されており、容易に操作できる場合、外部に追加する必要はありません。

危険である旨の表示
電気さくを設置する場合は、人が見やすいように、適当な位置や間隔、見やすい文字で危険である旨の表示を行う必要があります。

【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑧

なぜ、今ジビエなの？

「ジビエ(Gibier)」はフランス語で“狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉”を意味する言葉です。日本でも古くから狩猟肉を食べる文化があります。

被害防止のために捕獲を進めるだけでなく、捕獲鳥獣を地域資源(ジビエ等)として利用し、農山村の所得に変えるような有害鳥獣を「マイナスの存在」から「プラスの存在」に変える取組を全国に広げていくことが重要です。

マイナスの存在

野生鳥獣による農作物被害の増大

営農意欲の減退

耕作放棄地の拡大

農山村地域の衰退

有害鳥獣の捕獲

捕獲鳥獣の処理が負担に

ジビエ振興

これまで廃棄していた捕獲鳥獣のジビエ利用拡大を推進

プラスの存在

積極的な捕獲の推進

様々なジビエ利用

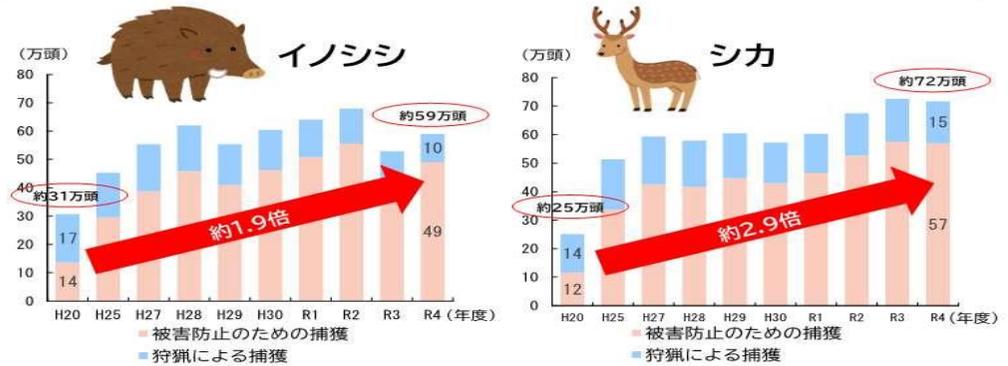
- ・外食・小売
- ・学校給食
- ・ペットフード
- ・皮革製品など

農作物被害の低減が期待

農山村地域の所得向上が期待

捕獲頭数とジビエ利用量

- 近年、被害防止等を目的とする捕獲が中心に行われ、イノシシ及びシカの捕獲頭数が大幅に増加し、全国で合わせて年130万頭超を捕獲しました。
- 捕獲鳥獣の処理は、埋設や焼却が主流で、処理労力が負担になっています。



- 食肉利用は捕獲頭数の1割程度。
- 近年、野生鳥獣のジビエ利用は増加傾向。
- 食肉以外のペットフード利用や、骨、皮、角等の多用途利用も推進。



【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑨

ジビエの魅力

ボディメイクに!



ジビエには不足しやすいビタミンやミネラルが多様に含まれています。

疲労回復に!



ジビエには、代謝に関わるビタミンやミネラルが多く含まれています。

丈夫な体づくりに!



ジビエに豊富な亜鉛は免疫細胞を活性化するはたらきがあります。

美肌になれる!?



ジビエにはビタミンEという抗酸化成分も含まれ、脂質の酸化を防ぐはたらきがあります。

イノシシ肉と豚肉の栄養成分の比較(100g当たり)

■カロリー



244kcal※1

イノシシ肉

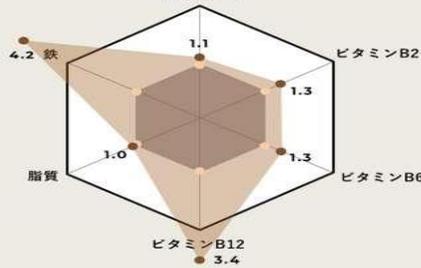


237kcal※2

豚肉

※1 肉、脂身つき、生
※2 大型精肉(肩ロース)、脂身つき、生

■イノシシ肉/豚肉の比較(豚肉を1とした場合)



シカ肉と牛肉の栄養成分の比較(100g当たり)

■カロリー



119kcal※3

シカ肉

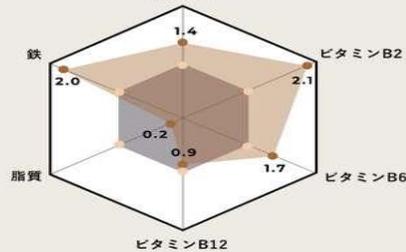


294kcal※4

牛肉

※3 ニホンジカ、赤肉、生
※4 和牛肉(サーロイン)、赤肉、生

■シカ肉/牛肉の比較(牛肉を1とした場合)



出典:文部科学省「日本食品標準成分表2020年版(八訂)」
引用元:https://gibierto.jp/

ジビエを楽しもう!

GIBIERTO ジビエト



動画や様々なコンテンツ(ジビエを食べられるお店、イベント情報、料理方法等)情報を掲載しています。

詳しくはサイトにアクセス!→



HELLO! ジビエ



レンチン商品、ブロック肉、ペットフード商品を取り扱い、ジビエ旅などジビエを楽しむための情報が満載です。



詳しくはサイトにアクセス!→



全国ジビエフェア



全国ジビエフェア

見つける、新たな魅力
2023.11.1 - 2024.2.29

令和5年11月1日から令和6年2月29日まで、全国ジビエフェアが開催されています。特設サイトでは、ジビエの加工品から皮革製品まで幅広く、取り扱い店などを紹介しています。

詳しくはサイトにアクセス!→



【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑩

ジビエの安全と信頼の確保のために

「野生鳥獣肉の衛生管理に関する指針(ガイドライン)」(平成26年11月策定、令和2年5月改正 厚生労働省)には、ジビエを不特定または多数の者に供与する狩猟者や食肉処理業者、飲食店営業者等が共通して守るべき衛生措置が記載されています。

また、食用として問題がないと判断できない疑わしいものは廃棄することを前提に、具体的な処理方法についても盛り込まれています。

ジビエの利用拡大に向けた各段階の取組ポイント



国産ジビエ認証制度

ジビエの処理加工施設の自主的な衛生管理等を推進するとともに、より安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るため、平成30年5月に「国産ジビエ認証制度」を制定。

認証を受けた処理加工施設で生産されたジビエ製品等には認証マークが表示されています！



国産ジビエ
認証

北陸管内の獣肉処理施設



■石川県

- ① 里山食品株式会社(穴水町)
- ② 山本ジビエ処理施設(七尾市)
- ③ 合同会社のとしし団(羽咋市獣肉処理施設)(羽咋市)
- ④ ジビエ工房三谷(金沢市)
- ⑤ Hunter Base JAPAN(白山市)
- ⑥ (一社)白山ふもと会 尾口山菜加工施設(白山市)
- ⑦ ジビエアトリエ加賀の國(小松市)

■新潟県

- ⑧ 柿崎ブーシェリー(上越市)
- ⑨ 雪国Base(十日町市)
- ⑩ 惣右工門(糸魚川市)
- ⑪ じび柴(南魚沼市)
- ⑫ ホタル喰楽ぶ(長岡市)
- ⑬ 長吉(新潟市)
- ⑭ 河合淡水魚(新潟市)
- ⑮ KOKAJIYA(新潟市)
- ⑯ ファームコバヤシ(新潟市)
- ⑰ 善(三条市)

■富山県

- ⑱ グランマルシェタケダ(株)(富山市)
- ⑲ 大長谷ハンターズジビエ(富山市)
- ⑳ (株)にくまる(高岡市)
- ㉑ 一般社団法人 狩猟屋(黒部市)
- ㉒ NPO法人 新川地区獣肉加工施設(阿窪の森工房)(黒部市)
- ㉓ (株)K・MEAT(ケーミート)(上市町)
- ㉔ いのや(南砺市)
- ㉕ ジビエスタ立山(株)(立山町)
- ㉖ (株)Dotok(南砺市)

■福井県

- ㉗ ふくいウエストサイドジビエの会(福井市)
- ㉘ 美浜町新庄獣肉加工施設(BON1029)(美浜町)
- ㉙ 嶺南地域有害鳥獣処理加工施設(若狭ジビエ工房)(若狭町)
- ㉚ 若狭高浜いのしかい(高浜町)

注)県から報告のあったジビエの処理加工施設を取りまとめたものであり、管内の全ての施設を網羅したものではありません。

【知って防ごう 野生鳥獣被害】⑪

令和4年度 鳥獣対策優良活動表彰

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（個人））

野生鳥獣の捕獲活動や食肉処理施設を運営し、豚熱発生後、一早く、県のPCR検査による出荷体制に取り組み、流通を再開。今年度の処理頭数は、県全体の約75%を担い、研修会等への積極的参加、衛生管理技術向上に努め、地域を先導。

むらい さとし
村井 悟史

富山県黒部市

主な取組

- 市の鳥獣被害対策実施隊員としてイノシシやシカ等を捕獲し、農業者からの鳥獣出没情報をもとにわなを仕掛け、地域農業者と一体となった活動を実施。平成29年度に「一般社団法人狩猟屋」の代表として食肉処理施設を整備・運営。近隣の新川地区処理加工施設（平成30年度整備）の運営にも協力。
- 「富山県獣肉の衛生管理及び品質確保に関するガイドライン」に基づき、捕獲から迅速な放血、施設搬入、剥皮・内臓摘出から枝肉処理、精肉まで一貫した衛生管理を実践。品質にもこだわり、食味検査により、味を担保できない場合は食肉利用せず、ペットフードへ活用し、安全性と品質確保に配慮された商品は県内外のレストラン等から高評価。
- 6次産業化の取組を進めるため、ブランディングや経営管理、HACCP等の専門家のアドバイスを取り入れ、ジビエ初心者向けの牡丹鍋セット等を開発し、新たな販路開拓に努めるとともに、衛生管理の向上を図り、より安全で良質なジビエ供給に取り組むなど経営改善に努力。
- 県狩猟会主催の講習会にて、銃器の取扱いやジビエに関するガイダンス等を行い、県内ハンターの確保・育成にも力を入れているほか、ジビエ関係のワークショップ等にも積極的に参加し、豊富な知識と経験から議論の中心的存在。

【地域の被害金額（平成25年度）約540万円 →（令和3年度）約36万円】

